

御神幸祭：無実の知らせを伝えるお祭り

日本のすべての神社には独自の祭りがあり、防府天満宮もその例外ではありません。御神幸祭は防府天満宮の起源が元になっています。ご祭神の天神は神格化された菅原道真公（845～903 年）です。9 世紀後半から貴族で役人であった道真公は、京都の宮中から九州に左遷され、903 年、不名誉をそぞぐことも叶わず赦しもないまま亡くなりました。

御神幸祭は、道真公が亡くなってから 101 年後の 1004 年、一条天皇から「無実の罪」が奏上されたことを祝うものです。文書を携えた天皇の勅使が、少し離れた地元の港の勝間浦に到着しました。

（その港は 901 年に道真公が寄港した地で、土地の造成により、現在、内陸部となっています。）

11 月第 4 土曜日に毎年、荒々しい男衆が祭神を乗せた御網代輿を担ぎだして、神社の階段を滑り降ります。そして神社から約 2.5 キロ離れた古い港の跡地まで運びます。神事終了後、お神輿は再び戻されます。

この祭りは、身が清らかな状態で奉仕していることを示すために、白い布（さらし）のみを纏って裸で奉仕するため、裸坊祭りとしても知られています。

祭りが開催されるもう一つの理由があります。日々、人々の願いに応える神の疲れを癒すことができます。神社の境内から神を連れ出して信仰する多くの人々が、荒々しく魂を揺らすことで、神を元気づけて、また一年、人々の祈りや頼みに応えられるように活気を与えることです。